

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○「学び」の成果については、小中連携学力量向上地域指定事業一年目として、各教科の授業における指導力向上をめざし、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。小3年国語、小6年体育の授業実践が提案された。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的方策について見直し、実践に取り組む。</p> <p>○「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。今年度は年間を見通した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心に、学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事案への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にして解消に向けて取り組んできた。年間16件の認知報告を行った。Q-Uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。</p> <p>○「誇り」の成果については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域人材を活用した授業実践や体験活動に十分取り組むことができなかった。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加など、地域との連携の機会も自粛・中止により減少した。小4年で毎年行っている「思斉学級定面接」については実施できた。今年度は、地域人材リストを更新し、コロナ禍においても可能な範囲で地域とのコーディネートに係る体制づくりに取り組む。</p> <p>○学校運営に係る業務改善については、自発的勤務時間の上限45時間を平均では下回ったが、個別には超過する職員が毎月4～5名程度いる。今年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>『見賢思齊』の精神で たくましく未来を切り拓く児童の育成 ～小中一貫教育の推進を通して～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 目標や夢の実現に向けて努力する児童</p> <p>② 学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童</p> <p>③ 自他のよさを理解し、よりよい人間関係を築く児童</p> <p>④ 心身の発達について理解し、健康な心身をつくらうとする児童</p> <p>⑤ 郷土に誇りをもち、郷土の文化や伝統を大切にす児童</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にす。 ●「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業をしていると回答する教職員を80%以上にす。	・マイプランを定期的に見直し、取組状況を把握できるように、校内研修などにより取組の促進を図る。 ・共通実践を以下に示す。 ①「書く」力を強化するために、日記や条件付き作文などを日常的に取り入れる。②自分の考えや思いを文章で書く活動を意図的に仕組む。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」のパンフレットを配布し、いつでも使えるようにする。						
	○「楽しい授業づくり」の推進	○「学校の授業は楽しい」と回答する児童を80%以上にす。	・「楽しい授業」づくりをめざし、校内研究や日々の授業において学習課題の工夫をしたり、授業力向上に向けての手立てを図ったりする。 ・教師間の授業参観をいつでもできるようにする。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にす。 ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にす。	・人権集会やお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりや心の育成を図り、学校全体に支持的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見合う交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の代表者によるQ-U体験の充実を図る。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの認知、認知に係る組織的対応ができていると回答した教員を90%以上にす。	・日常的な担任の見取り・情報収集によりいじめの早期発見早期対応を行う。 ・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、全職員による対応を協議することで、多角的な生徒指導・教育相談を講じる。 ・担任だけでなく、学年主任・管理職・スクールカウンセラーとの連携を取りながら、児童の指導・保護者対応にあたる。 ・5月～2月にアンケート「月の心」を実施し、そのうち6月、12月にいじめアンケートを実施することにより、潜在的ないじめ						
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進	○「勉強は夢や目標の実現に役立つと思う」児童を70%以上にす。	・Q-U、NRTの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に出番・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようになる。						
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上にす。	・「早寝早起き朝ごはん週間」の実施を通して基本的な生活習慣の定着を図る。 ・自分の健康を維持するために、各学年の応じた栄養指導を行い、食事の大切さを学ばせる。 ・給食運営委員会・献立委員会を行い保護者へ給食への理解を図る。						
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員会議の1時間以内実施。(2日前資料配布・事前部会開催) ・データの共有化と整理整頓の徹底を図る。 ・定時退勤日を設ける。						
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎郷土学習「思斉学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実	○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にす。 ○「小中合同の交流・体験活動は楽しい」と回答する児童を80%以上にす。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月に地域の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。						
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができていると回答した教員を80%以上にす。	・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童に対しては個別の指導計画を作成し、適宜話し合い及び見直しを行う。また、必要に応じて、教育支援会議を行ったり、巡回相談や専門家チームの派遣を利用したりして、よりよい支援を行う。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------